



11項目のマテリアリティ(重要課題)を特定

日油グループは、NOF VISION 2030のありたい姿を実現するため、それぞれの課題でKPIとその目標を設定しています。目標数値と実績とのギャップを評価し、翌年以降の目標を再設定して達成を目指します。

マテリアリティ特定プロセス



従来のプロセスで検討したテーマに、新たな社会課題・注目度の高い課題を加え、候補テーマをリストアップします。各種ガイドラインを参考に、マテリアリティ要素として分類・集約します。

参考資料

- ISO26000
- GRIスタンダード
- SASB CHEMICALS
- SDGs
- 同業他社のマテリアリティ
- 社内ワークショップ

マテリアリティ要素について、「社会への影響度」と「自社への影響度」の2軸で、取り組むべき優先度を評価します。これには以下の項目を考慮します。

- ① ESG評価機関による日油の評価結果
- ② 直近1年間に株主さまからいただいたESGに関するご意見
- ③ 日油グループが過去に推進してきた課題の視点

CSR活動の推進を担う各部門の意見を取りまとめた上で、役員執行役員で構成する政策会議、ならびに社長を委員長とするCSR委員会における協議を経て、重要課題を選定します。また、重要課題の主管部門・担当部門は、KPI・目標値を立案します。

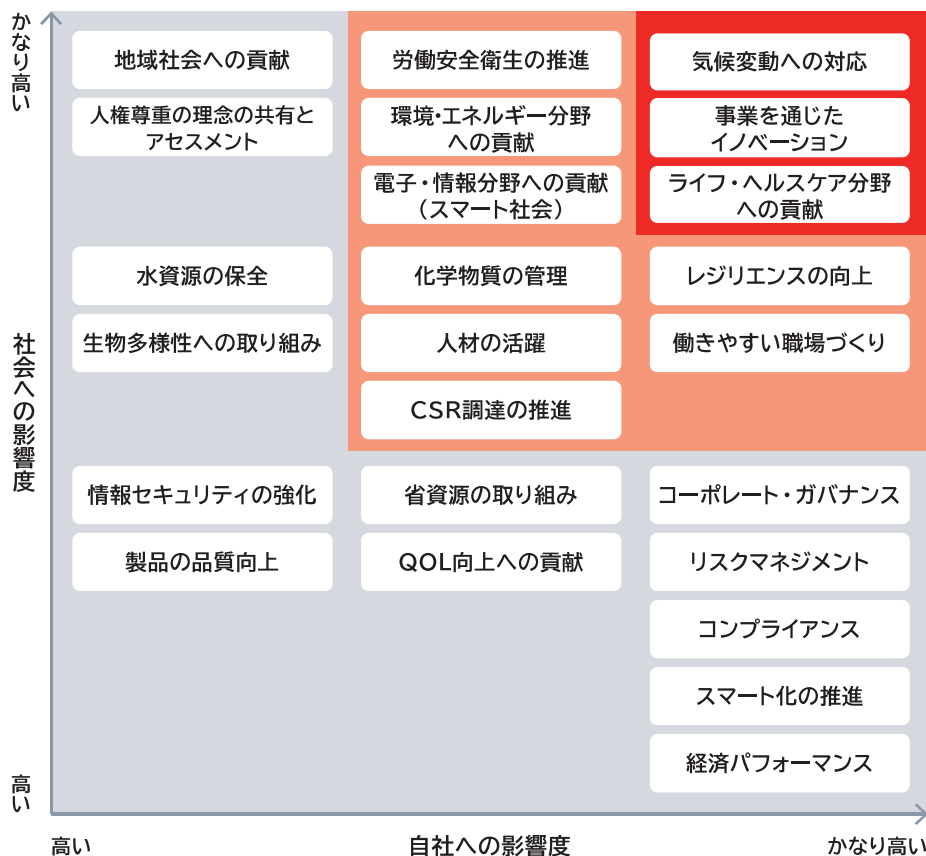
重要課題を取締役会で承認します。また、各項目のKPI・目標値は、取締役会の意見を踏まえて適宜修正します。これに基づき、各部門はそれぞれの活動を実行します。

重要課題は、定期的にレビューを行います。重要課題の各項目は、社内外のステークホルダーの意見を取り入れ、STEP1~3を経て毎年見直しています。



マテリアリティ・マトリックス

24項目のマテリアリティ要素を「社会への影響度」と「自社への影響度」の2軸でマッピングし、マテリアリティ・マトリックスにしました。右上の領域に示される11項目を重要課題（マテリアリティ）として特定しました。



2022年度 レビュー

社長を委員長とするCSR委員会に社外取締役を含む全取締役および役付執行役員が参加して、各マテリアリティの2022年度の実績値をもとに、マテリアリティのレビューを実施しました。2022年度の実績確認・2023年度の目標設定のため、委員会を2回開催しました。レビューの結果、以下の点を変更しました。

- ① 目指す3分野に対応したマテリアリティの名称を「目指す3分野への貢献」と直接的に表現することで、ありたい姿・2025中計との関連を明示します。なお、電子・情報分野への貢献については、対象とする範囲が広いいため、スマート社会と付すことで目指す方向を明示します。

目指す3分野	見直し前	見直し後
ライフ・ヘルスケア	医薬・医療・健康 への貢献	ライフ・ヘルスケア分野 への貢献
環境・エネルギー	環境配慮型製品による貢献 (環境負荷の低減)	環境・エネルギー分野 への貢献
電子・情報	スマート社会への貢献	電子・情報分野への貢献 (スマート社会)

- ② 働きやすい職場づくり・人材の活躍については、見直し前は3項目のKPIを設定していたところ、9項目のKPIを設定します。

▶ 人的資本への対応 P.127,129



3つのカテゴリーと主な取り組み内容

マテリアリティ・マトリックスに配置した11項目の重要課題は、大きく3つの活動カテゴリーに分類しました。

豊かで持続可能な社会実現 のための新たな価値の提供

目指す3分野に向けて、多岐にわたる事業展開の中で培ったコア技術の組み合わせにより、新しい価値の提供を目指します。



▶ 日油のクリーンテック P.021-029

▶ 統合報告書 ▶ P.044-047

事業基盤の強化

価値観の多様性を受け入れる企業風土を築き上げるとともに、環境の変化、技術の進歩を適切にとらえ、レジリエンスを高めていきます。



▶ 人的資本への対応 P.127-135

レスポンスブル・ケア活動の推進

製品の開発、製造から廃棄まですべての過程において、「環境・安全・健康」を確保することで、社会全体から信頼される企業グループを目指します。



▶ 気候変動への対応 (TCFD) P.088-099
▶ ケミカルセーフティ P.105-106
▶ 生物多様性の保全 P.110-115